

今回の平和行進に参加し、「平和」について考えること、それも他人事ではなく、一人ひとりが自分のことに置き換えて考えていくことが、ほんとうの平和教育になることを学びました。今後のオスプレイの飛行訓練ルートには、東北地方も含まれています。岩手県上空を飛ぶ計画もあるそうです。その事実をどう考えるか？大きな課題になるのではないのでしょうか。報道されていることだけではなく、実際に自分で見聞きし、自分の足で歩くことで初めて知ることが多くあり、非常に貴重な経験となりました。

本部書記 小番 希

保育園や小学校に部品が落ちても、納得できる原因究明がされることもなく、また飛び交う米軍機。米軍機が近づく度に何度も要せられる避難（小学校で1日に最多23回！）。米軍機の爆音で先生の声が聞こえなくなると、唇の動きを読み授業を受けるのだということ。米兵による度重なる事件。こんなにも日々の生活を脅かす米軍基地の存在があり、いつも危険と隣合わせなのだけれど、危険だとばかり思っていると生活できないのだというジレンマを抱えながら、「子どもたちに、雨以外なにも落ちてこない安全な空を」と求め、声をあげ続けるお母さん方や先生方の話を伺いました。日本の国土面積のおよそ0.6%の小さく美しい島に、現在日本全体の米軍専用施設面積のおよそ70%が集中し、負担が強いられています。「『沖縄で起こっているから、沖縄の問題』ではなく、『日本の問題』であることをどれだけの人を感じているでしょうか。」という問いに考えさせられます。

ガマなどの戦跡を実際に訪れて肌で感じながら、語り継がれてきた当時の話を聞くことで、沖縄の歴史を知るとともに、生活のすぐ隣にある米軍基地やそこに並ぶオスプレイを見ながら、現地の人話を聞くことで、沖縄での基地の存在感を目の当たりにしました。

平和祈念公園を出発した行進中、涙をぬぐいながらこちらに手を振っていた「おばあ」の姿が忘れられません。

テレビのニュースや新聞、資料を通してだけでは学び・感じきれない、ナマの学び・体験をすることができ、この経験はきっと忘れることはないと思います。ぜひ多くの組合員のみなさんにも沖縄平和行進に参加し、経験してほしいと思います。

3日間、大変お世話になりました。保育園の園長先生、保護者の皆さま、沖縄県教組、沖縄高教組の皆さまには、お忙しい中時間を割いてお話をいただき、本当にありがとうございました。

私は自主参加枠で参加しましたが、バスの発着場所がモノレール駅の付近で、交通には不便せずとてもよかったです。



ガマの内部



全国の仲間と